

## 市民の願いで誕生した本学を真に地域に根づかせたい

学校法人稚内北星学園 理事長  
稚内北星学園大学 学長

佐々木 政憲



ささき・まさのり氏

1979年 名古屋大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程  
2000年 稚内北星学園大学情報メディア学部教授  
2006年 稚内新エネルギー研究会顧問  
2007年 NPO 法人風のがっこう稚内理事長  
2007年 稚内北星学園大学学長  
2008年 学校法人稚内北星学園理事長  
『裸になったサラリーマン-自律と連帯の市民的公共空間の創造』、『オルタナティブ・ソサエティ』、『市民の社会経済学』(共著)、『平田清明/市民社会に生きる』(共著) など著書多数

本学は「道北宗谷地域に高等教育機関を…」という地域住民の長年の願いをかなえるべく、稚内市民と稚内市の多大なる支援により設立されました。1987年に短期大学としてスタートした際も、また2000年に四年制大学として再スタートした際も、稚内市や北海道から全面的な財政支援をしていただきました。このような誕生の経緯から、本学は北海道初の「公設民営」の大学といわれております。

こうした背景もさることながら、教育内容についても最先端のものを追求していると自負しております。本学は「情報メディア学部」のみの単科大学ですが、この学部名やコンセプト、またUNIXやJava言語といったオープンスタンダードな技術を教育に取り入れたことも、大学としてわが国初と認知されております。

本学でIT技術や映像技術を学んだ学生たちは社会的にも高く評価していただいているようで、本学が開催する会社説明会には毎年首都圏からもIT企業などをはじめとする多数の企業がお越しくださいます。実際の就職状況を見ますと、IT企業など情報産業への就職が約3割、残りは一般企業に入っていきます。このような傾向は、私としては望ましいものと思っております。といいますのも、現代の「情報化」というこの大きなムーブメントには2つの側面があり、ひとつには情報そのものが産業の一分野となっていく「情報の産業化」という面があり、一方で企業社会全体に情報化が波及していく「産業の情報化」という面もあります。卒業生が情報産業のなかでプログラマーやSEとして働くだけでなく、一般企業の情報化に貢献している者も多数いるという事実は、大変誇るべきことと受け止めております。

### 情報メディアを駆使して地域創造する試み

本年4月より「地域創造学科」を新設いたします。大学の設置の経緯からも、地域との連携を図るとい

ことはごく自然の展開ともいえますが、今この時期に、情報メディア学部内に設立することにはやはり意味があります。

現在日本の多くの地域が人口の減少や産業の衰退といった様々な課題を抱え、それに伴い多くの地方大学が「地域活性化」を学ぶ学部学科を新設したり、「地域貢献」を声高に叫び始めました。

ここ稚内市も例に漏れず、厳しい現実に直面しており地域の活性化に貢献できる人材が求められています。そのため本学も地域のリーダーとなる人材の育成に取り組むことにいたしました。さらにやるからには本学の強みを生かすような形でなければなりません。その答えのひとつが「情報メディア」を活用した地域創造なのです。活力のなくなった地域を柔軟な企画力や高度な情報発信力で支援し、元気づけていく。そんな力が本学ならば身につくのではないかと考えています。

さらにいえば、「地域」を学ぶ環境として、稚内市はたいへん恵まれていると思っています。幼稚園から大学まで途切れなく教育機関が揃い、空港もあれば港もあり、海を挟んでロシア・サハリン州と接しているため海外への玄関口という機能もある。産業も漁業や農業、製造業などがあり、すべての都市機能がコンパクトに備わっているという特徴があります。稚内という街を1つのモデルとして、学び、地域活性化のスキルを身につけた人は、おそらくどこの地域に行っても活躍できるでしょう。

### 市民にとっての学びのホームグラウンドに

学生数が減る傾向にはありますが、経費削減に力を入れ、経営の安定化を図っています。また稚内市からも引き続き大きなサポートを得ています。例えば人材確保という点では、市からも教育部長の方に理事に就任していただいていますし、職員の派遣も行っていると考えています。奨学金については「稚内市修学資金貸付制度」における利子の負担や、昨年度新設された「稚

内市大学育英金支給制度」では育英金を支給していただいています。

財界からの支援も非常に心強いものがあります。本学には創立以来支援を続けてくださっている企業が100社ほどあります。学長になって私はそのすべてにごあいさつに伺いましたが、社長さんの多くが創立当時のことを覚えていて、「あの時はわれわれも一生懸命でした」と20年前の思い出を語ってくれました。そして、「大学は今大変だろうけど、ぜひ頑張ってください」と声を掛けてくださる。これは本当にありがたいことです。企業側も余裕のあるご時世ではありませんが、それでも来年度はいくつかの企業の支援により寄附講座が開設される予定です。また、近隣の小中学校のPTAの方々など、稚内市民にも日頃からいろいろな面でお手伝いいただき、誠に感謝の念に堪えません。

以上のような行政、財界、市民といった地域のサポートを力として、本学も使命の一つでもある「地域貢献」に今後一層邁進していく所存です。

具体的なアクションとしては、まず来年度から「昼夜開講制」をスタートします。これまでも市民聴講生制度で本学の授業を市民に広く公開してまいりましたが、さらに「昼夜開講制」によって仕事をしながらでも学べるような態勢となります。本学が生涯にわたって自分の能力を高められる、市民にとっての「学びのホームグラウンド」になることを願っております。

また地域の課題を解決するために、本学の力をもっと提供すべきではないかと考えています。これまでも衰退しつつある観光産業のために本学の学生がプロモーション映像を制作したり、市役所で最新の情報技術の講習会を開催したりしてきましたが、それを他の産業にも広げ、より現実的な課題解決の方法を模索し、提案していきたいのです。そうした努力を重ね、さらに「地域創造学科」も軌道に乗せ、この地で確固たる基盤を築いたうえで、次なる新しいステージに向かうことを目指していきたいと考えています。 ■